

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム風見鶏
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	新潟県新潟市秋葉区柄目木352
記入者名 (管理者)	高橋 恵子
記入日	平成 20 年 9 月30 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	ホームの理念は、「大切に思っていること」とし、5つを掲げて玄関から目立つ所に掲示し、日々その意識を高め、近づけるよう努力している。	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	高い理念ではなく、常に管理者と職員(中堅、新人)、家族、地域の方々と身近な関係にあることを意識し、理念を共有している。又、日々の申し送りや例会等通じ取り組むようにしている。	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	風見鶏らしさ、「大切に思っていること」を運営推進会議や、ホームからのお便り、地域の行事、日々の散歩等を通じ理解して頂けるよう、又は、馴染みの関係となれるよう取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	理事長、管理者、他の職員が地域の一員として、散歩の際や、日常的な挨拶に始まり、野菜を頂くなど、近所づきあいをしている。	ホームの玄関前にベンチを置き、気軽に井戸端会議ができるように配慮している。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	区長さんが、入居者の散歩コースの一つになっている八幡宮の神主さんということもあり、常に気にかけて頂いたり、地域の行事や、サロン柄目木に参加するなど交流に努めている。	回覧板を通して、地域の行事のお誘いを受けている為、そのつど出席できるよう努力している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>利用者それぞれの個性や趣味、特技などを考えた上で、強制ではなく自発的な参加を心掛けている。又、民生委員や包括支援センターの方との情報交換や、地域のケア会議に参加し、前向きに取り組んでいる。他に人材育成の貢献として実習生の受け入れも行っている。</p>		<p>サロン柄目木(地域の歌の会)への参加は定着し、利用者の楽しみとなっているので、認知症の利用者への理解のある方々との交流の機会を増やしていきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>サービス評価の意義を職員に伝え、全職員で自己評価に取り組み、ケアの見直し、改善、自己実現へのステップアップできる良い機会であると捉えている。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>毎回利用者にも参加して頂き、意見を述べて頂いたり、外部からの意見や、家族からの意見を聞き、ホームの状況や取り組みを伝え、一つ一つ積み上げていくよう努めている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>苦情の相談にのって頂いたり、ホーム内での不明な点について聞くなど、サービスの向上に繋がるよう取り組んでいる。又、包括支援センターの存在は大きく、ホームの支えになっている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域ケア会議の中で学ぶ機会を設けて頂き、現状についてなど知ることができた。又、個々の必要性に応じ、支援できるようにしている。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者は、職員自身がケアされているという意識を持つことがよりよいケアへ繋がっていることを強調している。毎月の例会や日々の申し送り等で利用者の対応方法を検討したり、時には職員間で精神的な弱さやしんどさの共有を認識したりしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前には、文書に基づいて説明を行い、家に持ち帰って再度目を通して頂き、契約時には理解して頂き、同意を得るようにしている。又、退居の際にも家族と話をしたり、本人の意向を聞き相談している。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎月「ついたち会議」を開き、その中で意見を聞いたり、運営推進会議に参加し、思っていることを話して頂くなどしている。又、喜怒哀楽を出せる環境作りを心掛け、利用者同志の口論や不満も受け止めケアに活かせるようにしている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月個々の利用者の様子を手書きのメッセージで伝え、預かり金についても毎月収支表と領収書を送付し、面会時には確認のサインを頂いている。その他お知らせ等はそのつど文書にて送っている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時等、何でも言ってもらえるような雰囲気大切に、又、苦情があった場合、推進会議で報告したり、ホーム内でも例会等で話し合うようにしている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月の例会や、日々の申し送り等で意見や提案を聞くようにしている。又、管理者、ホーム長は日頃からコミュニケーションをとり、問いかけたり、聞き出したりするようにしている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>できる限り柔軟に対応できるよう、正職、パート職に協力してもらい調整に努めている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職については、利用者には話をして理解して頂けるよう、ダメージを防ぐ配慮を心掛けている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人、内外の研修を受ける機会を設けたり、年1回内部研修を行い、テーマを決めて発表したり、新人職員については基本的な研修を個別に行い、資格取得についても自己のレベルアップ、技術の向上の為にすすめている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型施設の会議に参加し、包括支援センターの方や、小規模多機能の方と意見交換をしたり、地域のグループホームと交換研修をしたりと、サービスの質の向上となるよう取り組んでいる。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩はホームの外でゆっくりと休める場所があり、例会や飲み会、忘年会などストレスを軽減できるような工夫をしている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	理事長は毎月の例会に出席し、勤務状況、実績等把握し、職員の生の声を聞き、資格取得や研修等を支援し、向上心を持って働けるよう努めている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービスの利用について相談があった時は、本人の心身の状態や、思いについて向き合い、家族とも話し合いをするなど、可能な限り受け止める努力をしている。		環境の変化に伴い、戸惑いが多いと考えられるので、入居以前の生活をベースに本人の意向を尊重している。又、入居前の生活についてケアマネ等に尋ねることもある。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族のそれまでの苦労や、サービス利用の状況など、それぞれの経緯をゆっくり聞き、受け止める努力をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容により、可能な限り柔軟な対応を行い、必要であれば包括支援センターや、他の事業所のサービス利用も含めた対応に努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	可能な限り見学や訪問など、状況に応じた対応をするようにし、やむをえずサービス利用となった場合は、家族と連絡を密に取ったり、以前利用した事業所とも連絡を取るなど、徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の会話や、関わりを大切にし、時には自室での話し合いの機会を増やし、1対1の対応を心掛けるなど、共に過ごし、学んだり、支え合う関係を築いていけるよう努めている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や外出、食事会など可能な限り家族の方とコミュニケーションを取る中で、利用者は主役であり、ホームの中心に位置していることを伝え、共に支えていることを忘れないようにしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	個々の家族とのこれまでの関係を理解するように努め、家族、利用者の思いを受け止め、面会時には、お茶をお出しし、コミュニケーションを取るよう努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来て頂く方には、状況に応じ、リビング、自室、多目的ホールと、少しでもゆっくりして頂けるようにしたり、八ガキや電話等、可能な限り支援するようになっている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事会の食席や、散歩、リビングでの様子など、一人ひとりの様子や利用者同士の関わりを大切に、その日、その時の心身の状態や気分、感情の変化を見守り、支え合えるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設へ入所された方への訪問、面会や退居された方への便りを送るなど、状況に応じて関係が途切れないうお付き合いを大切にしている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉の中に楽しみや生きがいの支援のヒントが隠されている為、できる限り以前の生活で継続できることは援助したり、可能な限り本人の希望や意向の把握に努め、実現できるよう努力している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や利用者の友人、兄弟姉妹、子供の面会など、親しい方々から、情報を得たり、日々の会話などからも、その方の暮らしの把握に努めている。		本人が持参された古いアルバムを家族とご覧になり、職員も同席し、古き良き時代の思い出をケアに活かしている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	目覚めの良さが一日の活動の質の良さを左右しており、日中心を揺さぶる体験や、お話しを沢山できるよう援助したり、職員間で情報を共有し現状を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の本人の訴えや様子、家族の面会、電話、手紙など、日頃の関わりの中から小さな思いや、意見を大切に、介護計画を作成するようにしている。又、例会を通じ、職員全体の意見を聞くようにしている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度の見直しを行い、変化が生じた場合はそのつど様子を見て対応するようにしている。又、変化が見られない場合も、現状を維持していくことの大切さも考え、プランを作成していくようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース台帳に日々の様子を記入し、毎月介護経過を記入する中で、気づきや情報は申し送り等で共有するようし、それを基に見直しするようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個々の本人、家族の状況に応じ、急な受診、外出、外泊等できる限り柔軟に対応できるよう、臨機応変に職員配置をするなどしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	駐在所の方に定期的に訪問して頂いたり、消防、民生委員の方など必要に応じ相談にのって頂いている。又、地域の神社、公園、公民館、図書館など社会的資源の活用もしている。		ギターボランティアの方は、定期的に月2回訪問して頂き、利用者の方もとても楽しみにしており、ホームの歌を作って頂き、利用者と共に歌ったり、CDを聴いたりしている。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や、必要に応じ他の事業者と話をしたり、相談にのって頂いている。福祉用具のことについてなど、専門の業者に相談することでアドバイスを頂いたりしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人、家族の意向や必要に応じ、ホーム内で解決が困難と思われる事例について相談したり、アドバイスして頂くなど、日頃から連絡を取るなど協働している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターやかかりつけ医との連絡を密にできるよう、情報提供書を作成したり、時には電話にて直接相談、報告するなど適切に医療が受けられるよう支援している。		ホームドクターには月2回往診して頂き、急変時には往診して頂いたり、他科受診の指示や、紹介状や電話等スムーズに受けられるよう支えて頂いている。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ホームドクターに往診時等、小さな変化についても相談したり、観察、報告することでアドバイスを頂いたりしている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日頃からホームドクターや、その看護師に相談したり、利用者の健康管理や医療活用の支援をして頂いている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時にはそれまでの状況の伝達の為に付き添うようにしたり、入院後も家族、病院関係者と連絡を取り、カンファレンスを行うなど連携するよう努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状況に応じ、個々の家族と面会時等に重度化した場合のことなど、ターミナルを含めて相談したり、意向を聞くなどしている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人の意思と、家族、ホームドクター、職員の中で、「できること、できないこと」を見極め、チームとして支援に取り組んだこともあり、今後もケースバイケースで対応していきたいと思っている。		ホームドクターには、その様な場合に備えて夜間、休日も対応、連絡が取れる体制をとって頂いたりしている。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族や担当ケアマネ、事業所の方などと情報交換をしたり、訪問するなど、少しでもダメージが少なくなるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者は人生の先輩であることや、一人ひとりの誇りや、プライバシーを大切にしている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>できる限り本人の思いや希望を表せるよう、日常的にその様な雰囲気を大切に、可能な限り自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な流れは決まっていますが、一人ひとりのペースを可能な限り大切に、意思疎通が困難な方についても、表情や様子から職員が汲み取り希望に添って過ごせるよう支援している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>お化粧をされる方や、自分の好みの衣類を選んだり、スカーフをしたり、個々の希望により支援したりしている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の準備など、個々の状況に応じて一緒に行ったり、旬の食材を通じて話をしたり、食べたい物を聞いたり、職員も共に楽しめる雰囲気、環境作りを行うようにしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お酒や飲み物など、一人ひとりの状況に合わせて楽しめるよう支援している。利用者で作った梅酒は夕食後の楽しみとなっている方もいる。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ホーム独自の排泄チェック表を活用し、日々の申し送りなどで一人ひとりの状況を把握して、気持ち良く排泄できるよう支援している。ケア用品の使用についても、随時見直しをするようにしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望や体調、タイミングに合わせ、可能な限り曜日や時間帯を考慮し、一人ずつゆったりと楽しめるよう支援している。特に夏場は入浴以外に、発汗や希望によりシャワー浴も行っている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は活動的に過ごして頂けるよう支援しながらも、一人ひとりの希望や様子を見て、自室やソファで休んでもらったり、夜間は眠れない方の話をゆっくりと聞いたり、温かい飲み物を用意したり、安心して休めるよう配慮するようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や日々の会話などから軽作業や趣味などを支援し、力を活かした役割になったり、楽しみごととなるよう配慮するようにしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や、家族の方と相談する中で金銭管理を支援するようにしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や本人の希望、状況に応じ、散歩に出掛けたり、戸外へ出掛けられるよう支援している。近くの神社や公園、田畑、桜並木と四季を感じたり、五感の刺激の機会となっている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食、買い物、ミニコンサート、お墓参りなど、一人ひとりの希望や状況に応じ、出掛けられる機会を作り支援するようにしている。又、家族との外出の際は緊急時の対応や排泄のことなど外出前や事前に伝え、少しでも安心して出掛けられるよう配慮するようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いを出す為の支援をしたり、家族からの電話やプレゼントを頂いた際のお礼の電話や手紙などの支援も行っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や友人、知人の訪問の際には、自室やリビング、多目的ホールなど、人数や状況に応じ使ってもらい、少しでも居心地良く過ごせるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の行動には何らかの理由があることを忘れず、日々のケアに取り組み、全職員が身体拘束をしないことを前提に、周知徹底し例会等で共有、認識を図っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は常時鍵をかけず、玄関については日中鍵をかけないことで対応し、利用者の様子については職員間で声を掛けたり、さりげなく見守り、声を掛けるなどしケアに取り組んでいる。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個々の様子に配慮しながら、昼夜を通してさりげなく様子を把握し、職員間で連絡を取り、安全に配慮するようにしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	日々の申し送りや例会などで一人ひとりの状態を把握し、話し合うなど危険を防げるよう取り組んでいる。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態に応じ、カンファレンスや例会など、事故防止に取り組む話し合いをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年1回、消防署での救急救命の講習を全職員が受講し、利用者によって予測される急変時の対応を主治医から聞くなどしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、2ヶ月に1回利用者と共に避難訓練を行っている。その際には機器の取り扱いの説明を行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりの状況に応じ、家族と話しをする機会を設け、起こり得るリスクや対応策を話し合ったりしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルだけに頼らず、顔色や様子など、いつもとどこが違うのか？など体調の変化や異変の発見に努め、情報を共有し受診等の対応に結びつけたりしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬袋に、薬ごとの目的を記入したり、副作用や禁止食材や注意事項については個別に申し送り、処方箋はケース台帳に綴り、いつでも見れるようになっている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日常的に水分摂取や食物の工夫、体を動かす働きかけを行い、便秘による、体だけでなく精神的に及ぼす影響についても理解するようにしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一人ひとりの口腔の状態や力に応じ、口腔ケアの支援をしており、歯科医師に定期検診をして頂いたり、個別にアドバイスしてもらい清潔保持に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の食事や水分摂取の状態を検食簿に記入し、情報を共有している。又、個々の状況に応じ、盛り付けや配膳の工夫をし、栄養バランスのチェックを管理栄養士に依頼、アドバイスをもらっている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、特に流行の時期を迎えるインフルエンザやノロウイルスについては情報収集し、予防や対応を職員に周知徹底したり、インフルエンザ予防接種を受けるなどしている。又、年1回見直しをするようにしている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所や調理用具は定期的に消毒を行い、食材の使用や管理、保存温度、気温に気を付けて取り扱うようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に植物を植え、ベンチを置いたり、玄関には季節の花や飾り物を置くなど、家庭的な雰囲気大切に、五感を刺激する工夫もしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花を飾ったり、2階の天井からの採光や、窓からの眺め、食材の準備など自然に季節や生活を感じ、過ごせるようにしている。又、CDの音量や不快な音はないかなど気をつけるようにしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やリビング、2階の談話コーナー、自室、デッキなど、独りで過ごしたり、気の合う方とのくつろぎのスペースになつたりと、思い思いに過ごせるようになっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談し、家具だけでなく、思い出の品や写真、アルバム等、馴染みの物や大切な物を持ち込まれ、少しでも心地良く過ごして頂けるようにしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	起床後や食後、その他状況に応じた換気に努め、冷暖房の温度調節をこまめに行い、トイレはまめに清掃を行い、換気扇と消臭剤で悪臭が出ないようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状況に応じ、手すりを活用したり、階段の昇り降りが適度な運動となるなど、身体の機能を活かした生活が送れるようにしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	鏡を見て混乱する方にシートを貼るなど、一人ひとりの状況に応じ、少しでも自立し、混乱することのないよう工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にベンチを置き、収穫できる植物を植えたり、デッキでは洗濯物を干したりと、活動できるようになっている。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家庭的な雰囲気の中、利用者の日々の生活を大切にしながら、地域との関わりやその方を取り巻く家族や身近な方との関係を少しずつ積み重ね、築き上げてきました。日々の小さな気付きや感動を支えに認知症が進行しても皆で支えていけるよう努力しています。職員は、例会や飲み会を通じ、本音で語り合える関係作りをし、夜勤のしんどさや日々の業務の大変さを共有し、乗り越えて行けるよう頑張っています。利用者の表情や、ホームの雰囲気を感じて頂けたらと思います。